

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が機能訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		活動に応じて間仕切り等をしている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			今年度は専門職を手厚い人数で配置している(看護師・作業療法士・保育士)
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○		スロープ屋根や手すりの配置はできているが、その他は既存の施設を利用しているため、改善の課題がある。
業務改善	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		既存の住宅を利用しているため、十分とはいえない。清潔に保つための 環境整備は行っている。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		ミーティングや会議、日々の業務日誌等でPDCAサイクルにより業務の連携を行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		保護者の意向を職員、法人内で共有し 業務改善の努力をしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公表しているか。	○			自己評価表は ホームページ上で公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	法人総務では評価を行っている。第三者評価は将来的に 検討している。法人理事会において事業報告を行っている。
適切な支援の提供	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			コロナの影響もあり、外部研修の機会は減っているが、リモートで参加できる研修に関しては参加するよう努めている。内部研修に関しては全体の研修に加え専門的な知識を深めるための勉強会を別途行っている
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか		○		保護者との 対面でのヒアリングが十分とはいえなかったように思う。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		アセスメントシートを使用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援のガイドライン「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			専門職が軸となり意見を出し合いながら活動に繋げている
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		週1回ミーティングを行い、児童の様子や成長度合いに合わせた活動内容になるよう工夫している
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			子どもの日々の状況、支援中の様子、保護者からの聞き取りを踏まえ、個別と集団の双方の面から適した支援ができるよう計画している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎朝の朝礼、ミーティングで当日の利用状況の確認を行う
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		終了後のミーティングはないが、翌朝のミーティング等で連絡事項の伝達を行っている
	19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎日、専門職別(医療、訓練、療育その他)の詳しい日誌を記録している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		○		今年度はコロナの影響もあり、担当者会議は行われていない。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		○		保健所等 行政関係には訪問をおこなっているが、具体的な連携は今年度はなかった。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			管理者が医療的ケア児コーディネーターの資格を所持しており、フォローアップ研修等で関係性を作り、連携できるようにしている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○			医療連携機関として 田山チャイルドクリニックドクターが月に2回訪問していただいている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解に努めているか	○			必要に応じて行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解に努めているか	○			必要に応じて行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか			○	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			○	今年度は参加する機会がなかった
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			毎月のお便り、連絡帳、スマホ等を利用し情報共有に努めている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○		保護者に対してのペアレントトレーニング等の支援にまではいたっていない。研修会の参加情報提供を行っている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に重畳事項説明書の読み上げとともに、説明を行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			日頃から保護者とのコミュニケーションを欠かさず、
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		今年度は行われていないが 保護者同志が交流できる機会を積極的に設けていきたい。
	36	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月のお便り、どリーまあ通信をお渡ししている。
	38	個人情報に十分注意しているか	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		毎年 秋祭り、サロンを行っていたが、今年度はコロナの影響で行われなかった。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を行っているか	○			防犯に関しては不明。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○		身体拘束、虐待防止委員会やマニュアルに基づき決定している。非常時の対応に対しては今後説明を行っていく。